

# 1 市区町村別生命表について

## (1) 生命表とは

生命表とは、ある人口集団の死亡状況が今後変化しないと仮定したときに、各年齢の者が死亡する確率や平均してあと何年生きられるかという期待値などを死亡率や平均余命などの指標(生命関数)によって表したものである。

これらの関数は男女別に各年齢の死亡数と人口を基にして計算されており、その関数値はある人口集団の年齢構成には左右されず、死亡状況のみを表している。したがって、ある人口集団の死亡状況を厳密に分析する上で不可欠なものとなっている。また、0歳の平均余命である「平均寿命」は、ある人口集団の全ての年齢の死亡状況を集約したものとなっており、保健福祉水準を総合的に示す指標として広く活用されている。

## (2) 市区町村別生命表

厚生労働省で作成している生命表には、全国単位の「完全生命表」、「簡易生命表」、都道府県、政令指定都市及び東京都特別区部単位の「都道府県別生命表」並びに市区町村単位の「市区町村別生命表」がある。

市区町村別生命表では、死亡率推定にあたっては5歳階級ごと(5歳未満は0歳と1～4歳に分割)の死亡率を推定し、また、小地域の死亡率推定に有力な手法であるベイズ推定を用いて死亡率の安定化を図っている<sup>(注)</sup>。

なお、市区町村別生命表に掲載されている全国値並びに都道府県、政令指定都市及び東京都特別区部の値は、市区町村の値との比較の観点から、各市区町村と同様の方法で算出しており、完全生命表及び都道府県別生命表の算出方法とは異なったものとなっている。そのため、全国単位の生命表は完全生命表を、また、都道府県、政令指定都市及び東京都特別区部単位の生命表は都道府県別生命表を用いるのが適切である。

この生命表における市区町村(区は特別区及び行政区としている)は、平成22年12月31日時点のものであり、その対象は、人口動態統計の観察対象範囲に含まれる市区町村のうち、神奈川県相模原市の行政区を除く1898市区町村である。

## (3) 基礎資料

平成22年市区町村別生命表は、人口動態統計(確定数)による日本における日本人の死亡数(平成22年)及び出生数(平成21年～22年)、平成22年国勢調査による日本人人口(確定数)を基礎資料としており、平成22年の市区町村別の日本人の死亡状況を表している。

注:ベイズ推定の手法を用いた市区町村別生命表の作成に関しては、昭和60年(1985年)、平成2年(1990年)及び平成7年(1995年)について、厚生統計協会(現厚生労働統計協会)の研究委託事業として方法の検討などが行われており、その研究内で市区町村別生命表が試算されており、平成12年(2000年)より、厚生労働省で作成しているところである。

## (利用上の注意)

### 1. 作成基礎期間について

平成23年に発生した東日本大震災による影響を避けるために、前回(平成17年)までの国勢調査年とその前後1年ずつを加えた3年間ではなく、平成22年1年間とした。

### 2. ベイズ推定のための地域について

前回(平成17年)までは、二次医療圏を基準にして都道府県をいくつかに分割した地域を用いたのに対し、今回は、基礎資料とする死亡数を平成22年1年分としたため、都道府県、政令指定都市及び東京都特別区部を用いた。

### 3. 端数処理について

端数については、掲載段階で四捨五入している。

## 表章記号の規約

… 計数不明または表章することが不適当な場合
------------------------